

線状降水帯の予測精度向上に向けた取組(全国)

効果概要: 令和5年の出水期も、台風や線状降水帯等による大雨が発生。線状降水帯による大雨発生の可能性について半日程度前からの呼びかけや、線状降水帯の発生をお知らせする情報発表の前倒しにより、線状降水帯による大雨の危機感をより早く伝え、自治体の早期の防災対応に寄与。

府省庁名: 気象庁

■ 実施主体: 気象庁

■ 事業概要: 線状降水帯の予測精度向上のため、水蒸気観測機器の整備や強化したスーパーコンピュータを活用した予測技術の開発等を進め、以下の情報提供を開始。

- 線状降水帯による大雨の可能性の半日程度前からの呼びかけを開始(令和4年6月)
- 線状降水帯の発生をお知らせする情報をこれまでより最大30分程度前倒して発表する運用を開始(令和5年5月)

線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけ

令和5年実績

	運用開始前の想定 (令和元年～3年のデータから検証)	令和5年
適中	4回に1回程度	22回中9回
見逃し	3回に2回程度	23回中14回

※ 適中した9回以外にも、3時間降水量が150mm以上となった事例が3回あり

線状降水帯の発生をお知らせする情報発表の最大30分程度前倒し

